



日本初！新規格のバン型セミトレーラとバン型フルトレーラを導入

～ゲートウェイ間の多頻度幹線輸送の効率化を実現～

ヤマトホールディングス傘下のヤマト運輸株式会社（本社：東京都中央区・代表取締役社長：長尾 裕 以下ヤマト運輸）は、ゲートウェイ（以下、GW）間の多頻度幹線輸送の効率化を目的として、従来より連結全長が長い新規格のバン型セミトレーラとバン型フルトレーラ（以下、セミトレーラ・フルトレーラ）を厚木GWと中部GWに各1台ずつ、計4台導入します。新規格のセミトレーラ・フルトレーラの導入は日本初となります。

1. 背景

ヤマトグループは、2013年に厚木GW、2016年に中部GWの稼働を開始し、2017年には関西GWの稼働開始を予定しています。GW間の多頻度幹線輸送による東名阪の当日便を目指すなかで、幹線輸送のさらなる効率化を実現するために、「いすゞ自動車株式会社」と「日本フルハーフ株式会社」と協力し、従来よりも連結全長が長く、大量に輸送できる新規格のセミトレーラ・フルトレーラを共同開発しました。

2. 新規格トレーラの概要（別紙参照）

（1）セミトレーラ

連結全長	17.5m（従来：16.5m）
導入台数	2台（厚木GW・中部GWで各1台）
運行開始予定日	平成28年度内



（2）フルトレーラ

連結全長	21.0m（従来：18.7m）
導入台数	2台（厚木GW・中部GWで各1台）
運行開始予定日	平成28年度内



3. 導入効果

セミトレーラは従来と比較し、積載量が約8%増加、フルトレーラは従来と比較し、積載量が約23%増加します。こうした積載量の増加により、多頻度幹線輸送の効率化が実現し、CO2排出量の削減にもつながります。

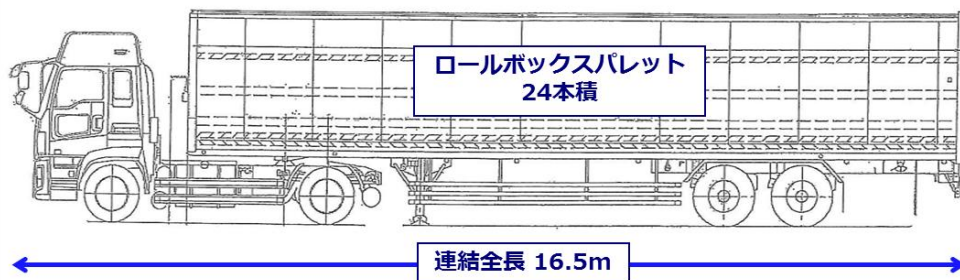
4. 今後の展開

厚木GWと中部GWでのセミトレーラとフルトレーラの導入効果を検証したうえで、2017年に稼働開始予定の関西GWへの導入を検討し、幹線輸送のさらなる効率化に取り組んでまいります。

以上

【別紙】新規格トレーラ概要

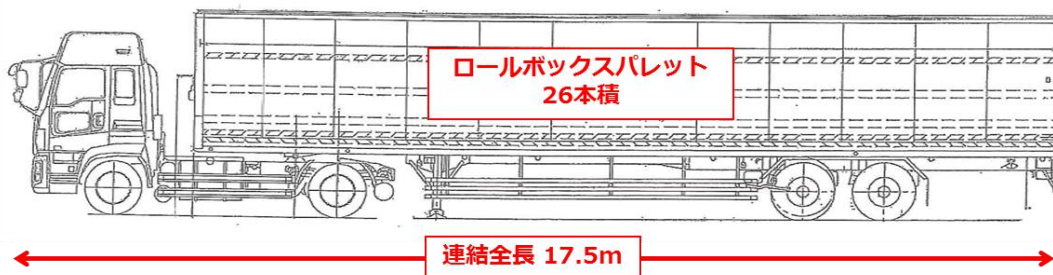
従来のセミトレーラ



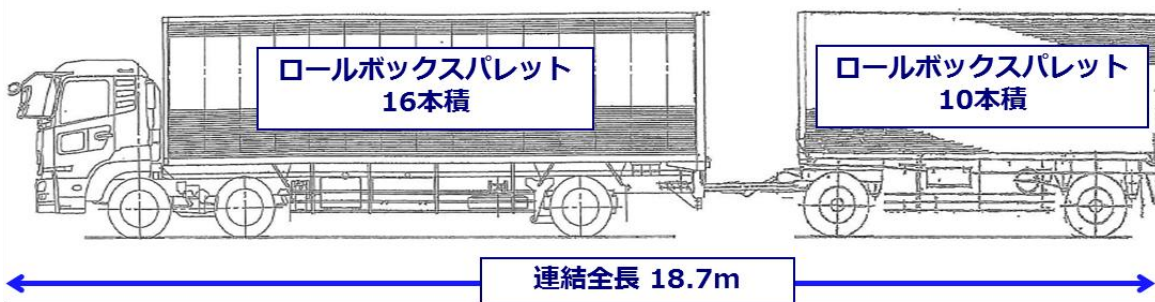
【ロールボックスパレット】
ヤマト運輸が、大型トラックに
荷物を積載する際に使用。
縦横：1.04m
高さ：1.7m



新規格のセミトレーラ



従来のフルトレーラ



新規格のフルトレーラ

